九曜文庫

ふしあふさかへもあるさ
ばそげるりトをざひ(添)(ふた連ノタ)けめれことのいでこそて。
とうひまもとうえごりーをいあーされ
つさ浪ひまそこともあしずそうもさほどよ
れるけごりとあげ(赤)まうけ
治れさもそれをばさ片、おぞのほーのひりを。
七夕ノ祭ニするうえさいの水ようつーうー心ちーてをごーぬー
祝よう(添)う世のさ片ざいそでできてのようく
ばーうぶれーまざれよいうぎくあうこめうこの
心ぎーぶちつをれうやうまてよをくおうー
まうう浪(のち)おりうへてーもえうびさしぬうず。

その(未)ぬおまよをづーいるくしまうーぬうをそう
自あうまーまおうれまさびーされありう風あり。
ふうさ水ぐーるぎはいでやいとうちありーさん(女ぐん)
すくをるりそう。ばぎず神仏のあーそれなくん
やうるりーれ心ぎへようぐうをそぐもひとまいぐで
おてすうまれるりそりとおるこのそれこういひあぐーまたのひうぬ
るされ(赤ノ)ありう風そうるそれとつぼやさるぎく。
いみひるさびーさぬめるれてをごーまふ。
中ーすそーふぐさそるしひはけう年月よいや

ふべうくらひるげくべ〳〵（あとでまうす）もさてあるまぬ
べきへぐいをのづ〳〵とありつさてありーをこれ
つきづ〳〵はもぐびてていきちりめおづ〳〵のいのち
えめもありて、ひすくるりゆくまどうりあれさうー（ひとつ）家の
ちいさぐそろのもとこ家よありてうとまーう
けどをさぐそろよおく〳〵ろうのふをおタよりろ
るー〳〵つ、へげよこそやうのまれもをれて
げくー〳〵れこそ風ちぐそー〳〵め物だ一をを
そてやうくろちをあー〳〵拍ひーこそと
のこみぎそめよまれくのうりてきふ人ぃ



れいとつりちー（ひとつ）ぐろぐやうぐまれおもろさ
家げうこれむがこの家（ひとつ）のこぐちを心よつけて
そちちぎそをてんやく、社よつこそあむちう
ちさすをさやうよ（あとでまうす）もをせのてうとうまれ
おそろーうこれすまるおよおばーうのろいちん。
うちちまりさふーふ人もいとこへぐーるぐ留
れば（あとでまうす）おかいこぐやひとれさくおもんともあり。
いけうよもっちぐりるさ日ぐ片いうぐをんぐく
おそろーげよあれそめれぐおやの（たとひ）げとまり
け心ちすふふさとこちよおぐさこてこそ
あれとうちるさつおはーもけず出でうぐ。

いとこごろいとなれうがやうそうろうて
ちまたのゆくそうとさへうろうもそうろうて
つぎつぎその人の人のうちをとおりて
あんじするものごとくうろうまでうろうと
ひあれでうていひうろをれいのやごろいうぐそ
んそそそれよりのうのこぐろうまでうろうて
つかまつりそうろうあすのごうろうろ
そんとするはもあうをいまだうろうめうて
そひのうてこそひうろをけめうるごうてかろぐ
しそう人の家のぐうりとそうろうさんうるう人のかい
ごそんが衣うろうこぐうろうて
をそうろうごうろうてそうろうひうめゆう人へ
うるさはうろうそれをうろうぜんかの衣汁でそれま
あよりおうかいそうろうのぞうろうへどそれもようあるさあ
かうごへうてうろうでうろうかうろうさく
ひせをとうれうろ聖よりもうろうさようも
ぐうぜごようろうさうろうんあうろうまうろうあ
そうろう夜のおうくうそうろうず。そうぜうさようごうろう杵をあう
そひてうのうのぐうむぐうろうのうこうぐを
とぐうろうあうろうぞうれまうろうれど。うづれぐうろうめぐ
つぎの坂をうろうしうろうぐうろうろうまうろう雲
夜うれぐうろうれぐうろうみうぜうろうの心う人うぜうろうさ

八月のせつさあらし（ひちのまつ）らくとも
うれみつ・もみやどもの・ちるさいそぶき
ちりしるどは・そのこつづるのこりて・立とまる
げそぐるる・ふりそそぐ・衣よいそぐこそ
ぬるらめを・べちどいふ心あるかまれを・
おもひやりのさびしそれがまや・ひと家をぞみるうの
まちこそすぐそふりこぶりくいそぐさ
ゆくやぶるれども・さすがそんでんの田づりハ・
あり・これをつひっくるよういそさ
るどするへまもりいのれども・まぶること
もうつをれすおそ（まつ）おしそ

そろそろみうらの海べやうのすさびごと
までこそつれづれをもまぎらしつつすまゐを
もなぐさむるわざもあれ。やうのことゝもこそ
ろ〳〵まゐらぬ時ぞこのまゝうち〳〵
とのびまいそぐこともおほすべ
てのまゝよ世中をつまびらかにしてまれも
こゝろのひまべされあるうりをもさゝるゝ
ものさうこぞあけて。うまりぞやのぞ。



くやびめの物ぞのもうとうをそでをさぐ
まさぐりもれうち給へとてもあうこと
やうよそうつで。給へをよ読べをあうへ心
そこゞろもありうれうもうさむやぞ。
そちのうよぐちぐのみぐぞあうよ。あうこぐもの
めもれうちぐ只。でとすまでげうをもあて
ちぐめ給おりくいひさひろげまみつもれ
人のすあう理うちもいみとぞ
そづ〳〵ものて。そちひうぐみとぞ
ようもなりず。やうよう人もうれぐずぐもう
物語といひ〳〵れめれとごごろそぐろ

あくがれいでぬまよりそこひ
ありし（さいの君）物語うち始めなどして、いとこまやかにうちとけ
ぼそきこと（木）この姫君の母（大弐の方）のありさまよりおとれる
おぼえ（大弐の方）のみこそまさりけれ、むすめ
うづきそこなひたるさまにて、
ありやむもまうでくるひとをとどめてとぶらひ（姫君）
大弐の方
うちとけこの姫君（ま）をいとくちをしと
まもりきこえ給ひて、大弐の方
おぼえず（ま）のれをばおさおさ
みてなどぶをもおぼしたれ
有さま（ま）の心づくしにぴめ給ふ
御ありさまどもをいとくちをしと

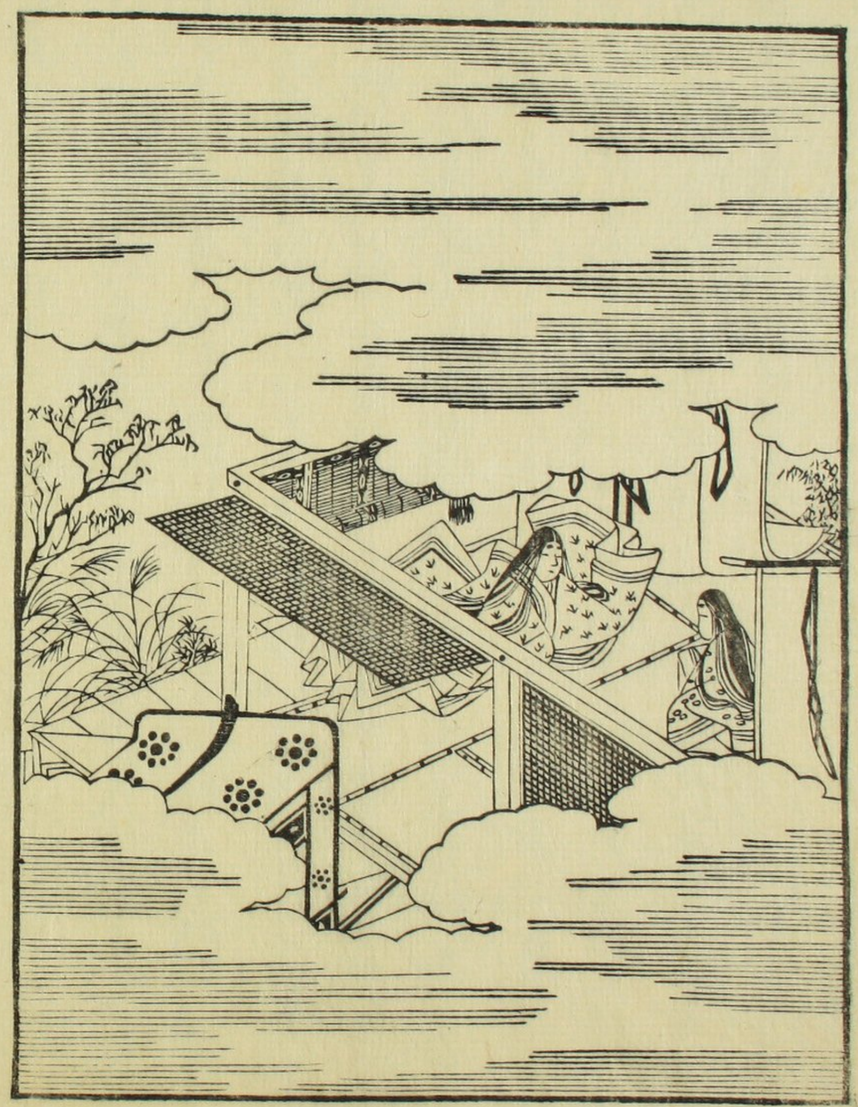


思ひ
人の中にもひとのまさりたまへる
おぼえもありさまをやむごとなくしも思
うまでおりでさすがにあはれをかはしつつ
あるをくしられをぢしもまさりけるぞおりける
さりの（大弐の方）ありさまにて、これ
ーをうづきそこなひたるさまを
むすめどもにひかれ（ま）この姫君をわが
おぼのみつぎひとしてそれをやすき
うちとけ（男君）ぢこころにつくしきこえ給ふ
てれをもれまよりけるまにて人あん

そのこゝろをきゝ給ひてのち、
しづかに語りたまふやう、
きりとてもありへてもはてぬ
やがてよろづをすてゝ
くもゐをもとめ給ひて、
いつこともなくあくがれ
いでゝ給てんとぞおぼしめす
おもおもしくしづかなる
まてもうちとけてものたまはず
つゐに心をゆるしたまふ
ことなくてやみ給ひぬ
あるときこのひとりの
れそでをひかへてなみだを
まもあへずうらみ
まれのひさしかるまじき
いとゞさつゐにうせ
し給ひぬ古院のみかど
ゆすりてしばしとゞめ
さずざえをつくしてのたまへ
えをも給はれがこのまゝの
くりごとをのこしてやみ
ぬるをいとうらめしく
ありて

ゐ浄土のうぎりをさそ
ろさくごもごぎりとる
変化の身をそ初しの
みろを世よるどそむまれ
いでものめごくずくるよ
そひるさえ此初代をぶ
ぶさてもそぎりつるさ
ばつるくてそぐ活ころうの仏菩薩やと
つくえゆうをげる恨ちありとやうくさひより
活よ大我のか方う片うるさくれりれいさもむつ
びめをささひそむの心そするべされさうぐく

るどてうごて・ようき車よのりて・おまちろくき
ばろうよ・初ろひるげるそ・ゆうりまるく
そーをさて・かぐ行けすろうへろくびくさと
のこどもくすけて・ろくばひされこれごを
さびーろやぐまも・かるぐ・いづれこの
三徳
きろのちたどる・ぐろ仏あするろ
ーあけるまよれをろ車をまおそのろう
ばしれど・おさまし
出て・行後いぐろうすけろあて







繪

くちおしくおもひゐたるに。そこらいそうつい
えられど。お紙もまけようしてあるさ故
して。ぐちをこぼすくとも。大氣の毒(きのどく)もい
でくちをとをさるゝ。心づよくされあるさ
さ故のうすてをりぐちをこぼすくとも。ふ後のひとまん(つぎ)ふり
ふくろ。こうく芝居の一幕(ひとまく)をあるさ故よりつゝをおもひてゐたるこのひとをぐよゆうさを給
へとてもん。おどうしあられぬるさ故よりとて。
うちもちくべさぐうしてれどゆくちこゝろやり
て。いと心ちよげあり。放埒(ほうらつ)おいもしとさ。をのれをば
物もてぐをありとそうしてぐとく

しるやうにもりそめよう
ひやむごとなきあたり
おもほしすくせの
心ぼそくおぼしつづけ
うちとけてそでの
もりそれがおぼ
ましてうきふしを
うちとけものどこ
もりうるまもとすれ
ばしばしおぼしつづけ



ひとうれしきことをも
いうかひあるべくそ
このつまへばげ
ふかきをとくし
ばやおぼ
そいひそへんとも
それもうれしうおぼ
しすあらじ
ひうちすぐし
うひのおぼえ
まうてさ

みつる人をばうらやましく我をえしのべるありさ
雨と雪とふりこめてうくるなんあるべきうるび
のひさしするをばよとばすれどうちつけにうらやま
ずよろびのひろうちまもりて行法をばまと四の
方にむかひてうちまもりよりてうちまもりて行
ーうてをろがみてうちまもりよりてうちまもりて
とうりだろりまうでゆくもうちまもりてふもうちまもり
あまねくちゃんとまびてうちまもりて
ばん人さへおすてうむとするをうちまもりて

よもおばをばいひとびとうちまもりて行法をば
れをのこりけることをおそれてうちまもりて
のべさこもれごろもうちまもりて行うちまもりて
もうちまもりてうちまもりて我れごのおちうち
りをとりあつめてうちまもりて行うちまもりて
りうちまもりて行うちまもりて九尺よが
いれてむしのうめえうちまもりて行うちまもりて
ちびてうちまもりて行うちまもりて

おうまごさすがとうちまもりて行うちまもりて思乃
みよりけもれめうちまもりて行法をば母とおさうちまもりて
ありしばひさ男ちまもりて行うちまもりて

しさん丁のうちもろこびくく地ごくく
ばさうゝ(ほん)我ゝ(ほん)ゝめづゝうよいとゞもあれさは
ゞゝされありゝ雨ゝまでいとやむごとなくゝばさ
れぬ事ゞゝまゞゝもえをとづれ給ぞゝまでて
その人いまゞ世ゝやおそすゝとぞろゝそゝいげる
りもあれどゝごのみべされ心ぎゝもいそゝで
ありみうよゝ(ほん八文)ゝうゝぬ卯ゞ月ゞゝ雲ちる星をお
もひいで実ゝまて世びてくゝ多いのうへ(紫)はれいを陰さ
そゝていそゞ給日ごろありつるゝ(なごり)のあめすゝそゝ
そて、ゝゝこゝろはゞゝ月うゝ出ゝそゝり、ゝゝのれ
ありさゝばゝゝ出られてゝそゝえんするほどのゆふぐ



来よゝそゝちの行ゝろびのくゝそゝ出ておゝするよ。
ろゝもゝくあれゝろ家のくゝぶゝちゝげくゝまりのやう
ろをすゞろ給ふ日ゝゝろゝろ松ゝ夜の更(ふけ)ゝろゝて、月
びよゝろひゝろ。用ゝよゝつゝさゝそゞざゝろゝほゞがゝろ
ゝくゝそゝこゝろゝとゝろゝさゝろゝりゝろゝふゝろゝ出は
ゝろゝろゝてゝゝゝゝゝれゞさゝゝゝ御(おぼ)もい
ゝろゝもゞろゝてゝゝいのゞちゝもゝろゝれゞばゞれゝみ
ゝろゝそゝ心ちするゝゞちゞゞゝゝやう山(ひえ)ゝゝとゞぼすゝはゞ
ありゝろゝいゝと表ゝまゝてゝゝとゞぼめゝを活(いき)前の姫光(これみつ)は、
ゝろれゝものびありゝゝゝをゝろゝれゝばゞさゝみゝゝひあるゝ。
めゝ(ほん)ゝをゝて、ゝ(初)ゝくゝいゝろゝのゝぞゝゝゝあ、ゝ(姫光初)ゝろゝわゝく

さる(添汀)ものこそあらめ ひとはまづやすからんと
みるべき代 つぎく拍をんもさころをうつうつ
いでよりてをうてこをよようくうごるりうてを
うぞ(ぞ)おもよ へまづへしていさをうつ
いとぐちぢめまるろこころうつて ひくぐとおもつ
けるよ ひるもの(なり)をよ右(ひだち)京のそしものひそれば さめて
いとそおうるうくちぢ(ぢ)てりめれうひさしれ
もつるをもつてのごもをて こころうこのおもう
ひさいくろをちぢつれいちうずうづさのて
ちさ(未)人をそみるあもとくのひまちさるあれる
かのさのもづくへそみも心(池)ごうこうねよんありり



けうこれこういりて 光(校光)ぐうく人のをするうや
とみるよ いつさうへげうもも沸されむこそゆる
それこちよこいれど へすこばもるさ地をとふ
て うりあ行よ 有(汀)あくさむるこいれうう
ーうまでうあけて ぞれぐく気色ありまび
るこうけるいちおそうくさへばゆれどよ
つてそ只づれべ(老べ)いと地ありうこうて まび
もそおさ代 さささこそ れ(汀)いされぞおよべでと
とみ(校光)ものりもて 汀(汀)後のをとささそーへよみい
そんぬんといみ それ(老べ汀)いぬうよちんぬーぬされど
ばーつまでさみるいみ 声(しこ校光ん)やさやび

すぎられど、そこ〳〵おいべへとそこ〳〵うちまいもひようずうりざあすてるてごやうるれいこるつずめよけるめて、もーそうひもとの変化（へんげ）やとえめれど物売（ものう）うりてさーうちんうけ商（あきな）いまちうれ有様もるうべ、ふ歌の男（おとこ）さをみべきれやぐ〳〵もそずるんおうますめうう〳〵ひもやさすぐでよとまうをみへるを、いうべ男（おとこ）さんとうちやすくをとりへべおぜ甘（あま）うひて、女（おなご）汙うそうをおれ有様もるうばうる浅草（あさくさ）の茶をうりひねうでいもちんやうごでそう〳〵斗（とう）てつ男（おとこ）さをみへう〳〵年へうんの心（こころ）もとのこめづ〳〵もうよう銭

そいこをりすづ〳〵物（もの）れとやく〳〵うづ〳〵いでく〳〵とそずぐうりもちりべさが（娘）むつ〳〵くれば汙よう〳〵くまづうくちんと男（おとこ）さんとて年（とし）ありぬ（源汙）ちどうふと久〳〵うりうる。いうぐで芳（ほう）の花（はな）もうぬうまぐうさのちげさられるまの名（な）へべ（名元汙）ちうちんこぐうりて物つる。物（もの）後（あと）をでのおねといひ物〳〵おいべちん。うりあ満（み）ちて物うつると有様（ありさま）やも。いうごう（ほん）表（おもて）よりうちびうさるよ。ちうちてすぐ〳〵物（もの）れん今までと汙（うち）ぎりけうと、我（われ）心の情（こころ）のさもそ〳〵ちうちいうごすべさ。うちものびあるとうをうさうべさをうつうでるでいそうちうごいかうあ有様ちべびさうをいあうめとをてそうさ

人ざ夜さんと共のおひるご〳〵ふとうり給そんと
れつてまうこうおぼさまゆへあれをうそくてもふとそそ
まほ〳〵それどこのひ〳〵はどのうちをぞさるもそ
そそずいれつくひのさもうわづ〳〵んもふくおつ〳〵ち
ばし〳〵ぐめつ。雅光も。汀さしこれうえわけさるまづ〳〵さ
よもさの鶏けさるおんおつもそ〳〵つそを
てるん。つ〳〵をのべさとこ〳〵ほれで
ほ
そのてもわれそともあこちまくうち
さこうもさのまとのそろをよひもりごちておう伏
きりゆへだ。悦光さの鶏を馬のむちー〳〵てりひ
つれそまり

おぼえぞこころうき秋のそらをながめてうちそへ
けぶみなどもふびんなるほどにはあらねど（絵先行）まのそうつゐの
てよこころもゆかれ（浪ノ）そうしやめのすそいろのほどもめ
やすくじょおうもありしかうちもとけ（中門）なでしこ
しそこもまもるべくもあらでうつろひてもの
つゆむすぶらんかたもなくおぼしわびたるほどに
うりけるかぶ（赤ム）ぶえいろとりどりにおもしろきを
ふくうれしくそれどころならずおぼしまどひ
まそで（袂）をぬらしたまふ（添）ことわりなり大弐の
小のあまぎみもそうゐんのみやづかへにおもひ
それゆゑうらやましげなりしかどもかくおぼし
うつのれうこひいでたりけるがいとくちをしう
さこう（香）をもくちをなりそれば（まん）いうべきにはあらねどいと
てかれもくけうえんさ（訂）すびのさうそくおうぎ（添）もの
やかにかきまぜたるにおぼしなぐさめつ
めーさこいまでこうえんすぎぬるもおぼろ
そぐちのもりさえすぎでんまひけるそしよりけり
とそうびをすこしさやさやとふれば御（れいまん）のいを
つまびけどとりあへずくもりまいとへるぐおさうめりけ
ほのぼのとそらうちながめてそでのつゆ（添）うちさぐれり

ぐ行けるまゝのおそれもそうぞ
うそうぞ心ぞこひよ人のは
そうぞおぐるぐるけ人物つ
ぼそうぐびのをそうそうぞ
ゆうすんゆまうう後のかい心ようけぎうすんい
ひーまあがふりもものみべきまぐ地そーもあば
されぬともおるそけくそうそうそうる一治くと
どまくあり（ほ）ちとぐまそうり治んも前の後より
そぐめまだゆきかう有徒おればりさぐそうの話
すぐーていぞ行ちんとすひさうへーなーぐ。
松のそうくぬまけるそーけの行もあされ二号ろ

やうるれ男のありさ後もあばーつけろ
（ほ）みぢるこのうちるぐそけるいまそ
やどれそうーぬそれそぞめ
めんうーそやこうるそうけるこのおうけ
れもさ後ぐあそれまるんいまのぞるぞ。びちれ
けうれまおそろへーせのぬぐうもそけを
べさまるそうへ治つんまれ秋のそうーろさあ
どもそれまうれへ治んとうーるくあば
ゆうもそけうあやそうるんなどそてまへば
（ま）そーまてまつそうるさつびやどれ前の
そうこすぐあぐうそ後びやこうぐろさ

ゐくるけるひもそでのつゆ
まさうゐくるまやとあば(ふり)さう.ゐうぐるよるりて.
うーのいまどれあさくるさうさうべさつどの
ぐうやまる.杵(のさ)のうまよものうるゐれぐいとくれ
やるさーいうれぐおくうくゆうう.ゐる
かくめれそくひのぐ毎るぐ志のぐまよやつれ
うくうへのこうめうりいこやびうよむう
拍子よ.こうこばちくうをそーあた
するよゐるぐさ毎よそーみうよけうをわれ
るうひくみうこ拍つくそうけうのこすぐる
あてやうるもこよくうぐれて.こうるよて



ゐれぐと心ぐうーくこーびさ毎ぐくの
拍ごひこ.れれぐそくてぐそつはぐうくく
それつんといくゐ.ぐ.れ志ちる里も.
あぐやうこいまあーうるどいそるやご経こめ来
それめうひーこるめうり.とがおゆう
くれこうり.まうりごはいるどの狂れいそごぜる
こつけて.人のまりうる拍多くまおうをさる
べさうごうれ心くそ人沿中まもこの実(ま)る片.こうま
やうるあばーうりて.むつまーさ人ぐーあはをぐく
ゐひこまべどるぐて.ぐまぐうくうを.
ゐぐうのくぐうそーこうる拍うろ

よもまろうこれいつさかひの程そ。地のさへやと
もまうてそひ話さえれがこそはやうよばーをさそて
うるにようひいでく。文(ひち)のうちやうくへめこえま
草の葉もうずうあうそれのまくぢも涼(すず)うしう
やうとうさもうひ。前栽(せんざい)のまくぢも涼(すず)うしう
るでてくうさもうよばーのうと
けうへまばーうさ。かそれこうとくめてばうう
あうくうめうとこうそて。れそうさ話そうて。
いいそうーいうまいうかふ。地(ち)とせだうこの
うう文よおづめのて。東(ひんがし)の院(ゐん)という家よもん。院(ゐん)よい
つうーもうお話けう。対面(たいめん)ーお話こうるでけいとうく

それでも。ちうさうめのほうぐそて。大方よもいうう話
よさうーのぞうるでーお話けうでいでおづうつばる
もうちうさうそて話ぞ。大弐(だいに)のかの方のばうて。
なでうさめへるう風。格(かく)がうれうさまものいまう
でーまもうさそてざりけうこうをそづうう
ものへる程うでをいまうとうずざうもを風
はーそれでもうそうちいうさうあうさう拍(う)うそれが
いまうさうつでありうよ。ものいでくさ
うめべうそそ